

先

日、出雲市の実家の隣保内で不幸があり、自宅が『張場（はりば）』という香典の受付場所にあたったので手伝いに行ってきた。その昔、葬式がそれぞれの家で行われていたころの名残ようですが、近所の方々にとっては葬儀場まで行く手間が省けるので今でも便利な田舎の習わしです。

とはいえ隣保の人たちは朝から葬儀一切が終るまで張場に詰めて世話を焼かなくてはなりません。他に帳簿付け、喪家の留守番、葬儀場での受付の手伝いや『つばかき』というお仕事もあります。つばかきというのは、お墓の掃除と納骨の手伝いをする役目です。喪家の人たちが葬式を終えて帰ってくる時間を見越して、その一時間以上前からお墓に行ってお骨を迎える準備を待っているのです。

この『つばかき』という謎の言葉を調べようと検索しましたがほぼ全滅状態。唯一ヒットしたのが出雲市在住のSさんという方が書いているブログでした。そのブログによれば「昔は墓穴を掘つたのだが土葬がなくなつてからはお墓の掃除と納骨の手伝いになった」とあります。はてSさんは出雲のどの辺りの方だろうかと読み進めていくうちに犬の散歩の写真を見つけたのですが、そこに写っている川と橋が実家の近

くの風景だったのです。この近辺の方に違いありません。

ネットであつた一件しかなかつたつばかきに関する記事が同じ地域の方が書いたものならば、出雲市のごく限られた範囲にしか残っていない風習とも考えられます。きつと大昔はあちこちで行われていたつばかきという役目や言葉自体も、住む人や町の姿の移り変わりによつて次第に失われていったのかもしれないところですが、このSさんは実名でブログを書かれているのですが、この名前に見覚えがあつたのでネットで調べるとやはり記憶どおりでした。テレビや映画の特撮ヒーロー作品等の脚本家の方だったのです。同性同名の方かとも思いましたが出身地が出雲であることや、ブログに脚本家として活躍されていた頃の記事が書かれていたので間違いありません。スーパー戦隊シリーズの脚本でつとに有名な先生が、まさかこんな身近に住んでいらつしやるとは思いがけない大発見でした。

さてようやく三時過ぎに張場から解放され、松江への帰路に着きました。家庭の事情で帰郷されたSさんは多々ご苦労もあつたようですが、いざれ私もこの辺鄙な田舎町に帰らねばならぬ日が来るであろうことを考えると億劫でなりません。

2024.12.16

1473号(夕焼け通信 創刊1993.4.23)

〒690-0823島根県松江市西川津町4276-B402 gosuitei.sakura.ne.jp/yuyake/ 編集 宮森健次

木幡智恵美

16

老い老いに

四

年目に突入した夕焼け通信、この年も新旧交代しながら十人以上の書き手による文章が紙面を賑わした。小説や脚本まで現れ、出稿者も遠くはオタワにまで。私は幼少期を過ごした大阪の泉南での生活を一年にわたつて連載している。そして、八月末に行われた「みんなで作る発表会」のワークショップで特別講演をされるという田島征三さんのお話を聞きに隠岐まで行き、あろうことか「ある小さな小さな島の物語」の絵本を田島さんの手に取つていただいたのだ。その反応は、「田島さんの痛烈パンチ」として夕焼け通信に載せた。

我が家では、四月から末の息子が小学校に上がり、長女は中学二年になつていった。思春期真つただ中に入った長女を筆頭に、マイペース長男、わんぱく二男と、相変わらず子育てに右往左往の日々。どの子も病気がちで、長女は小さい頃からよく溶連菌感染症に罹り、中学生になつても熱を出すことがあつた。生後一か月から喘鳴が出た長男はよく風邪をひいて熱を出し、食が細いからか感染症に罹りやすい二男も熱を出したり腸感冒に罹つたり。職場の理解に助けられてはいたが、同居の義母がいなければ、仕事を続けることはできなかつたろう。

部活が忙しい長女はもう家族とはほとんど一緒に行動せず、休みの日は里の出雲に行くにも公園に遊びに行くのも長男、二男とだった。冬の間パン作りに凝つていた長男の頭の中ではカブトムシやクワガタ虫が飛び交い、「ファーブル昆虫記」を手にしてからはフンコロガシ探しを二男と共に付き合された。二男のわんぱくぶりはさらに高じ、小学校では喧嘩ユージと名付けられる。

通信が始まつた頃に大病をした夫が「いつまで生きられるか分からんから」というのでバイク購入を許したところ、そのバイクに乗つてみたくなり、中型免許取得に自動車学校にまで通うようになった私。「疲れた」を連発しながらも、子育て、仕事、夕焼け原稿書きとあれこれ目まぐるしく動いていたその頃、すでに四十歳になつていたのだが、多くの人の熱量が注ぎ込まれた夕焼け通信のパワーに引きずられてでもいたのだろうか。

30代フリーター 韓国の非常戒厳は、保守系の与党と左派系の野党との間に横たわる分断の越えがたい深さをあらわにした。大統領の尹錫悦は国民に向けた談話で、野党は国会で多数の政府官僚の弾劾訴追を発議して行政をまひさせており、これは内乱を画策する反国家行為にほかならず、北朝鮮の共産勢力の脅威から韓国を守り、「自由憲政秩序」を守るために非常戒厳を宣布すると説明し、野党議員を排除しようとした。

そのもくろみは一夜にして覆された。排除の対象とされた野党議員らはすぐさま国会に集結し、非常戒厳の解除要求決議案を可決させるとともに、大統領の弾劾訴追案を提出して、逆に尹政権の排除に取りかかった。

年金生活者 尹は分断を人為的に解消しようとした。それには一方を排除するほかに、必ず排除のし返しという反作用をとまなう。野党を事実上ないものとして扱った「安倍一強」「自民一強」政治が裏金の発覚をきっかけに、たちまち排除されたのと同じ力学

30代 その違いはどこから来るんだ。

年金 王を持たない共和制の国家として誕生した韓国と、天皇を戴く日本との間の歴史的な違いがもたらした。

「万世一系」のもとでは政権交代の発想が生まれない。交代は世襲による代替わりに限られ、ひとつの王朝が別の王朝に交代することはあり得ない。その考え方は民主制の今も残り、自民党の下野がありふれた出来事ではなく、例外的なことのように受け取られる。

政治への不満は与党をほかの党に取り替えるのではなく、与党におきゅうを据えることよって表出される。選挙は失政の罪を洗い流すみそぎであり、自民党の延命をはかる儀式となっている。

このことは重大な政治的な決定を国民が自分自身の手よって行うことを回避したがっていることを意味する。戦争をやめたいのに、自分たちではそれを決められず、天皇の聖断に頼った。

が働いた。

尹政権が分断を埋めて国内の統合をはかるためにとつたもうひとつの方法は北朝鮮への敵対姿勢を強めることだ。非常戒厳の理由として北朝鮮の共産主義勢力の脅威をあげたことにそれがあらわれている。対米関係の強化も、対日関係の修復もそこから出てきた。

30代 非常戒厳が出されたことについて「民主主義が根づいていないのか」と発言したアナウンサーがいるのをSNSで知った。

年金 民主主義が圧政の出現の可能性を前提とし、それを阻むシステムとして生まれたことを無視している。

西欧で民主制の母胎となったのは絶対王政だ。それは封建制のもとで分散していた政治権力を国家に集中する中央集権制として成立した。それが民主制の前提となる国民の等質性を形成する基盤となった。

すべての権力が国家にあるとすれば、そのもとにある人間は平等なはずではないか。それなのに、王が圧政を

戦後、象徴天皇制になっても、自己決定を回避するメンタリティーは残っている。山本太郎が園遊会で当時の天皇に直訴の手紙を渡したのはそのあらわれにほかならない。自民党が間違ったことをしても、最後は天皇が正してくれるのではないかという無意識の期待が国民の中にあると言ってもいい。

行い、貴族や聖職者が特権を享受し、平民を抑えつけている。その矛盾を武力よって解消しようとしたのが市民革命だった。

絶対王政は政治の安定を前提にしている。神から授かった王権は不動のものであり、身分は子々孫々まで続く永遠のものと考えられた。その安定を乱すものはただちに排除されなければならない。

これに対し、民主制は政治の不安定を前提としている。圧政や身分制が復活し、自らが覆される可能性を織り込んで、それを阻む仕組みを用意している。そのひとつが選挙による政権交代だ。それはかつて密室でやっていた権力闘争を大っぴらにやる仕組みにほかならない。政治の安定を人為的にかき乱す装置と言ってもいい。安定の長期化は独裁や腐敗を招きやすいことがわかっていくからだ。

選挙はしょつちゅうあるのに、政権はめつたに代わらない日本にくらべると、政権交代を繰り返してきた韓国はそれだけ民主主義が根づいていると言える。

これに対し、韓国の国民は決定をゆだねることのできる存在を持たない。言い換えれば逃げ場がない。最後は自分で決めるしかない。非常戒厳を止めようとして国会前に集まった国民や国会議員には、自分たちが止めなければ、だれも止めてくれないという、あとのない切迫した気持ちがあつたはずだ。政権交代のシステムとしての民主制が根づきやすい、もつと言えれば根づかざるを得ない基盤がそこにある。

30代 「根づいていないのか」と発言したアナウンサーは何を勘違いしたんだ。

年金 政治の安定を民主主義だと思つたんだらう。民主主義が「不安定」を前提としているのは「不安定」を前提とした社会の上に成り立つ制度だからだ。そんな社会は近代以前にはなかった。「生産用具を、したがって生産関係を、したがって全社会関係を、絶えず革命」する資本主義（マルクス、エングルス『共産党宣言』大内兵衛・向坂逸郎訳）がそれを誕生させた。

ニュース日記 950
中村 礼治

韓国で起きたこと